

## コロナのせいで

秋田県 大湯小学校

4年 田子 陽莉

「今日の新型コロナウイルス感せん者の数は、大館保健所管内で……」。

毎日毎日、ニュースから流れてくるこのセリフに、あきあきしてしまっている私です。

「ああ、まただ。毎日必ずこのニュースは流れるんだよな。今日はでも、750人か。少なくなってきた。よかった。このままなくなしてほしいんだけど……。もう、いや。」

新型コロナウイルス感せん者数のニュースを聞いて、私が思っていることです。あきあきはしているけれど、でも、自分たちの身体を守るための大切なニュースで、確かめずにはられません。日本中の人々が、私と同じ気持ちでいるのではないかと思います。

どうして、こんなことになってしまったんだろう。そう思わずにはられません。コロナ禍といわれる前の、いつも通りの毎日にもどってほしい。それはきっと、世界中の人たちの願いだと思います。

コロナ禍といわれる、今のようなじょうたいが始まってから、いやなことばかりがありました。どこにも行けなくなってしまったこと。今までのくらしとちがって、マスクをつけなければいけなくなったこと。毎日、熱をはからないといけなくなったこと。

学校では、私のクラスは学級へいさになりました。友だちや先生に会えない時間が、一週間も続きました。(みんなはどうしているかな。)(コロナにかかると、どうなるんだろう。)(みんなに会いたいな。) そんなことばかり考えた毎日でした。

だから、学級へいさが終わって登校できたときは、本当にうれしかったのを覚えています。友だちと会って、顔を見て話す。ただそれだけのことが、こんなにうれしいと思ったことは初めてです。

でも、登校はできたけれど、気をつけて生活をしなければならないのは変わりません。必ずマスクをつけなければならないし、給食は何も話さないで食べています。マスクをつけるとみんなの顔が見えません。顔が見えないことはさみしいことだと、初めて知りました。楽しい行事もできなくなりました。みんなが集まれないからです。みんなで集まると楽しいということに、今気がつきました。

コロナのせいで(「おかげ」という言葉を使いたくないです)、私は、今までのあたりまえだった生活の中に、たくさんのうれしいことや楽しいことがあったのだ、ということに気づかされました。

顔を見て友だちと話せることや、他学年の友だちといっしょに遊んだり、発表を見せてもらったり、行事にちゃんとみんなで参加できたりすることが、こんなにも大事で楽しいことだったということに……。でも、きつともう少しで、またみんなでマスクを外して、笑顔で話せる日がくると信じています。

そうなったら、今以上に友だちとの絆がもっともっと深まって、うれしい楽しい毎日になるでしょう。家族とも、前から行きたかったディズニーランドに行きたいです。

コロナのせいでわかった友だちとのつながりやふれあいの大切さを、コロナが終わってからもずっと忘れないでいたいです。